

## チャイナタウンのガラス

—博多79次型ガラスの復元— (参考資料)

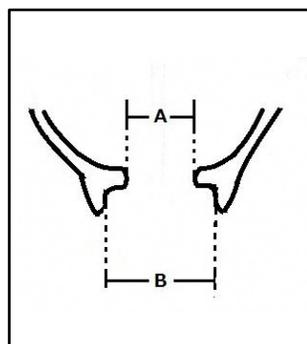
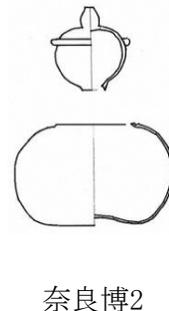
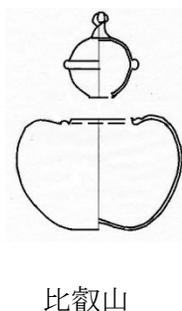
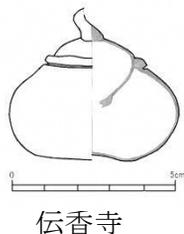
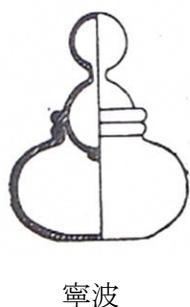
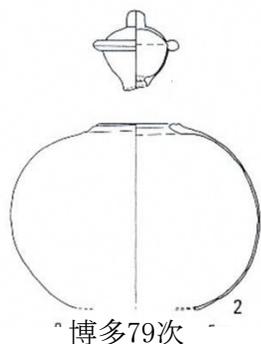
井上 暁子

### 〔要旨〕

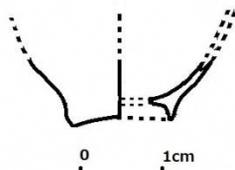
- 博多遺跡群と周辺では11世紀後半頃～13世紀に属する坩堝やガラス資料が多数出土、12世紀を中心に生産が行われた。7世紀後半の飛鳥池遺跡も資料数は多いが、博多は稼働期間が突出して長い。
- 坩堝附着のガラスの鉛同位体比分析から、12世紀後半以降の鉛原料は対州鉛に収斂する。
- 中国の宋代(960-1279)にひろまったカリ鉛ガラス組成が用いられており、博多に移り住んだ宋人が直接製造に関わった可能性が大きい。「吹きガラス」技法による容器が作られたとすれば、日本では初めての遺跡。
- 79次調査出土の蓋付き壺(博多79次型)の類品は中国の11世紀後半～13世紀に散見される。
- 国内の類品も11世紀後半～13世紀初にかけ複数出土・伝世。唐物として「瑠璃壺」がもたらされていたことは『新猿楽記』に記され、需要が多かったとみられる。
- 吹きガラスは「徐冷」もふくめ玉作りとは別の難しい技能だが、東京藝術大学ガラス造形研究室と協同した復元研究から、博多79次型は簡易な設備と道具を用い合理的な製作技法で作られたと判明。西方とは異なる、中国独特の技法と推定。
- 非実用的な容器。仏教で神聖視された「瑠璃」として、主に宗教的用途(神仏への捧物容器、舍利容器、宝珠の見立て)に使われた。蓋自体が舍利容器とされた可能性も。

### 〔博多79次調査で出土したガラス容器と類品の特徴—同じ技術系統を示唆〕

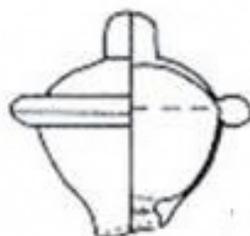
- 博多79次は大型(最大胴径約80mm)。他例は50mm台が多い。
- 蓋の吹口の内径(約7mm)と外径(約10mm)はほぼ共通し、使用した吹竿は同じタイプ。
- 蓋にガラス紐を巻き付けて鏢とする特殊な技法も共通する。
- 身の口径と蓋の胴径とがほぼ同じであり(20mm前後)、身と蓋の製作技法に連続性がある。
- 鈕(摘み)に多少の変化形がある。色調は青・緑系が主。



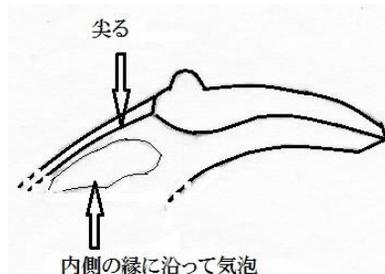
吹口模式図  
A:内径 B:外径



平等院6



博多79次



平等院片 (B-01) 口縁の特徴

〔身部の寸法〕 単位：mm

	博79	伝香寺	奈良1	奈良2	槇尾山	比叡山	寧波	朝陽	崇實1
最大径	80	51	65	45	56	48~50	52	53	66
高さ	60	27	50	30	/	34	32		42
口径	22	23	22	21	25	18~19	27		26
底部	/	凹		凹	/	凹	平	平	やや円
色調	薄黄緑	青	緑	薄緑	青	青	青緑	不透明青	青

〔蓋部の寸法〕 単位：mm

	博79	博85	博115	博172	博147	箱崎37	築港5	伝香寺	奈良2
胴径*	20	17	19	16	/	/	/	25	20
最大径**	27	24	25	24	/	/	/	30	23
高さ***	21	18	/	/	/	/	/	20	19
吹口内径	5	5~6	/	5	6	6~7	6~7	5~6	5
吹口外径	9~10	9	/	7~8	10	10~11	10	11	7
色調	薄緑	青緑	青	薄緑	青緑	乳濁薄青	薄青	青	薄緑

奈良3	西野田 1	西野田 2	比叡山	平等院 1 B-15	平等院 2 B-10	平等院 3 D-01	平等院 4 L-01	平等院 5 B-11	平等院 6 B-16
22	22	21	18	30	32	21	18	/	/
33	30	30	21~24	37	39	30	26	/	/
23	/	16	17	/	/	/	16	/	/
6~7	/	6	7~8	/	/	/	6~7	6~7	6~7
8	/	11	9~10	/	/	/	8	10	12
青	緑	緑	青	青	青	白	濃緑・金	青	青

\* 鏝下 \*\* 鏝を含める \*\*\* 鈕（摘み）を含まず。復元図および写真（伝香寺）からの推測値を含む

『新猿楽記』 「八郎の真人」 藤原明衡（989-1066）

八郎真人ハ商人ノ首領ナリ。利ヲ重ンジテ妻子ヲ知ラズ、身ヲ念フテ他人ヲ顧ズ。一ヲ持テ万ヲ成シ、壤（つち）ヲ搏（うつ）テ金ト成ス。言ヲ以テ他ノ心ヲ誑（あざむき）惑シ、謀ヲ以テ人ノ目ヲ抜ク一物ナリ。東ハ俘囚ノ地ニ臻リ、西ハ貴賀ガ嶋ニ渡ル。交易ノ物、売買ノ種、称テ数フベカラズ。

唐物ニハ沈・麝香・衣比・丁子・甘松・薰陸・青木・龍腦・牛頭・鶏舌・白檀・紫檀・赤木・蘇芳・陶砂・紅雪・紫雪・金液丹・銀液丹・紫金膏・巴豆・雄黄・可梨勒・檳榔子・銅黄・紺青・臙脂・緑青・空青・丹・朱砂・胡粉・豹・虎ノ皮・籐・茶堦・籠子・犀ノ生角・水牛ノ如意・瑪瑙ノ帯・瑠璃ノ壺・綾・錦・緋襟・象眼・纏綯・高麗・軟錦・東涼ノ錦・浮線綾・羅縠・呉竹・甘竹・吹玉等ナリ。

本朝ノ物ハ、金・銀・阿久夜ノ玉・夜久貝・水精・琥珀・水銀・硫黄・白錫・銅・鉄・縑・蟬羽・絹・布・糸・綿・纈纈・紺ノ布・紅・紫・茜・鷲ノ羽・色革ナリ。

蓋シ、泊・浦ニ於テ、年月ヲ送リテ、定マレル宿ナシ。村邑ニ於テ日夜ヲ過シテ、留マル所ナシ。財宝ヲ波濤ノ上ニ貯ヘテ、浮沈ヲ風ノ前ニ任セ、運命ヲ街衢（まちのちまた）ノ間ニ交ヘテ、死生ヲ路ノ頭ニ懸ケタリ。噫、賓客ノ清談、甚ダ繁クシテ、妻子ノ対面ハ已ニ稀ナリ。

（川口久雄訳注『新猿楽記』東洋文庫424, 平凡社, 1983, より）

## 〔資料概要および参考文献〕

- 博多79** 博多遺跡群第79次調査出土ガラス容器 博多区冷泉町出土、12世紀前半、カリ鉛製、中国鉛。  
『博多50—博多遺跡群第79次調査の概要—』福岡市教育委員会、1996。
- 博多85** 『博多57—博多遺跡群第85次調査の概要—』福岡市教育委員会、1997。
- 博多115** 『博多82—博多遺跡群第115次調査の報告』福岡市教育委員会、2002。
- 博多172** 『博多135—博多遺跡群第172次調査報告』福岡市教育委員会、2010。
- 博多147** 『博多106—博多遺跡群第147次調査報告—』福岡市教育委員会、2006。
- 築港5** 『都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告V』福岡市教育委員会1990。
- 伝香寺** 「伝香寺地蔵菩薩像内納入舍利容器」（奈良市）。安貞2年（1228）造立・宝物納入。酸化鉛約50%。  
朝比奈貞一・山崎文男・大塚巖・浜田達二・斎藤精宏・小田幸子「唐招提寺白瑠璃舍利瓶並びに伝香寺碧瑠璃舍利壺について— $\beta$ 線後方散によるガラスの鉛含量測定—」『古文化財之科学』6、1953。  
倉田文作編『像内納入品』日本の美術第86号、至文堂、1973。
- 奈良1** 「舍利殿」伝九州出土、12世紀、奈良国立博物館蔵、館蔵品番号865（工185）。  
『奈良国立博物館蔵品図版目録 工芸編・仏教工芸』奈良国立博物館、1992。  
『仏舎利の荘厳』（図録）、奈良国立博物館、1983。
- 奈良2** 「金銅宝幢形経筒」伝北九州出土、12世紀、奈良国立博物館蔵、館蔵品番号1132（考307）。  
『未来への贈りもの中国泰山石経と浄土教美術』（図録）、九州国立博物館、2007。
- 奈良3** 「瑠璃鈕銅板製経筒」伝福岡県出土、平安時代、奈良国立博物館蔵、館蔵品番号818（考236）。  
『奈良国立博物館蔵品図版目録 考古編・経塚遺物』奈良国立博物館、1991。  
『館蔵の経塚遺物』奈良国立博物館、1983。
- 槇尾山** 「和泉槇尾山施福寺2号経塚出土ガラス容器片」12世紀前半、和泉市蔵、和泉市久保惣記念美術館保管。  
秋山進午『和泉槇尾山経塚発掘調査報告書』、和泉市久保惣記念美術館、1983。  
馬淵久夫『本邦出土古代ガラスの原料産地と材質の変遷』1988。
- 比叡山** 「伝滋賀県比叡山根本妙法堂附近出土品」の「ガラス小壺」12世紀、小玉1点収納、奈良国立博物館蔵。  
『拈華微笑—仏教美術の魅力』（大倉集古館展覧会図録）ロンドンギャラリー、2000。  
井上曉子「平安時代の経塚出土ガラス容器—伝比叡山経塚出土品を中心に—」（日本ガラス工芸学会2017年度大会口頭発表資料）。
- 寧波** 「翠綠色瑠璃瓶（玻璃瓶）」南宋（1127 - 1279）、1982年寧波天封宮地宮出土、香料入、寧波市博物館蔵。  
林士民「浙江寧波天封塔地宮発掘報告」『文物』1991 - 6。  
薰貽安主編『寧波文物集粹』華夏出版社、北京1996。
- 朝陽** 「藍色玻璃罐」金（1115 - 1234）、遼寧省朝阳市重型機機厂院内金墓出土、遼寧省博物館蔵。  
張桂霞・田立坤「遼寧地区出土的古代玻璃器」干福熹主編『絲綢之路上的古代玻璃研究』、復旦大学出版社、上海、2007。
- 崇實1** 「ガラス合子」（3組の内1）、高麗（918-1392）、出土地不明、崇實大学校韓国基督教博物館蔵。所蔵番号IB0557。  
井上曉子「中世東アジアにおける蓋付き吹きガラス容器の流通—崇實大学校韓国基督教博物館所蔵ガラス合子と日本で発見された容器との比較を通じて—」『崇實大学校韓国基督教博物館誌』11、2015。
- 西野田1・2** 「西野田経塚出土ガラス壺片」平安時代後期、京都国立博物館蔵。  
『京都国立博物館蔵 経塚遺宝』京都国立博物館、1986。  
村上正名「安芸国豊田郡本郷村野田山経塚」『吉備考古』91、1952。  
木下忠「広島県西野田経塚調査報告」『古代学研究』15-16、1956。
- 平等院1~6** 「平等院本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品のガラス片」1053以降納入、平等院蔵。  
中井泉・白瀧絢子・井上曉子「平等院本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品のガラス片についての化学分析」、藤原信幸・海藤博・井上曉子「平等院本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品のガラス片の調査と容器の復元制作」『鳳翔学叢』8、2012。

## 主要参考文献

- 『経塚遺宝』奈良国立博物館、1977。  
比佐陽一郎「ガラス」大庭康時・佐伯弘次・菅波正人・田上雄一郎編『中世都市博多を掘る』海鳥社、2008。  
比佐陽一郎「中世博多のガラスと対馬」佐伯弘次編『中世の対馬』勉誠出版、2014。  
降幡順子・比佐陽一郎・齋藤努「中世におけるガラスの国産化の可能性：博多遺跡群のガラス生産遺物に関する分析結果から」『考古学と自然科学』66、2014。

**謝辞**：貴重な資料の閲覧調査をご許可下さった福岡市埋蔵文化財センター、奈良国立博物館、京都国立博物館、和泉市久保惣記念美術館、平等院、伝香寺、崇實大学校韓国基督教博物館の関係各位、及びご教示を賜った方々に深く御礼申し上げます。